

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 007	提案機関名 松田町
要望問題名 ヤマビルへの抜本的な対策	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 昨今、当町において林地等の山中のみならず、シカやイノシシが媒介して運んできたヤマビルが地域住民の生活圏で繁殖している状況である。農地において、被害を及ぼす事例が増加しており、農業従事者の耕作意欲を低下させる要因となっている。シカやイノシシが媒介して運んでいるとされているヤマビルだが、もはやヤマビル自体がその土地に根付いており、媒体を駆除すれば対策になるという状態ではないというのが現状である。対策として、県のヤマビル被害対策事業費補助金を受けて購入した忌避剤を人に吹きかけて一時的に防止することはできるが、広範囲で駆除する対策がない。農業、林業の活性化及び安全性の確保を図るため、広範囲における、人や農地に害を及ぼさないヤマビルの駆除方法の研究やヤマビルの肥料化等の活用法の研究を要望する。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考 平成31年度に自然環境保全課からのヤマビル生息状況調査でも回答しているが、当町の広範なエリアで生息が確認されており、農業者の耕作意欲減退に直結するため早急な研究を要望する。	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	企画経営部、生産環境部土壌環境研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等 平成19～20年度(2007～2008年度)の2ヶ年にわたり、効果的・効率的なヤマビル対策のため、県試験研究機関を中心に、民間研究機関、大学と協力して、ヤマビル対策共同研究に取り組みました。生息域や生息環境の調査、薬剤効果と環境影響調査、茶園等農耕地の管理方法や防除技術の検証を行い、得られた知見を個人での対策、地域での対策、広域的な対策として報告書を取りまとめていますので参考にしてください。 ○ 県自然環境保全課 ホームページ「ヤマビルにご注意を！」 http://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f986/p10106.html また、捕獲したヤマビルの肥料化については、ヤマビルが回収できたとしても肥料として利用するための量と比べ、回収できる量は極めて少ないこと、ヤマビルを完全に死滅させるための前処理等が必要で、より多くのエネルギーや労力がかかると考えられることから、肥料化利用には適さないと考えられます。			
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			